

日々の祈り

2021年5月3日(月)~8日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・コロナ禍にあって、教会員一人一人の心身が主にあって守られ、信仰の歩みが支えられるように。
- ・苦しみ、痛み、苦しんでいる隣人や、疲れ、悩み、孤独を覚えている隣人のために。
- ・九州連合長老会に連なる諸教会の歩みが、主の祝福の内に守られるように。

3日(月)

ルカによる福音書 13章 18節

そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。貧しい大工の息子としてお生まれになったイエスさまが、ガリラヤの小さな町から宣べ伝えられ始めた神の国は、十字架と復活によって確かな救いの現実として実現し、全世界へ、すべての人々へ、永遠の完成へと向かって広がります。神の国、つまり、神さまの愛と憐れみと慰めに満ちた神のご支配は、神さまによってわたしたちに与えられ、神さまによって完成に至るのです。このことを、わたしたちはまったく確かなこととして、信じて良いのです。

4日(火)

使徒言行録 3章 19~21節

だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。

わたしたちは、神さまが定められた救いのご計画の中を歩んでいます。十字架と復活の主は、救いの御業を成し遂げて下さり、今は天にとどまっておられます。やがて終わりの日、万物が新しくなるその時、主のもとから慰めの時が訪れます。イエスさまが再び来られるのです。それは、救いの完成の時、祝福と慰めがすべてに満ちる時です。この約束があるから、わたしたちは地上の歩みを神さまに献げ、悔い改めつつ、祈りつつ、忍耐して、希望をもって、今の時を生きることが出来るのです。

5日(水)

イザヤ書 40 章 27~28 節

ヤコブよ、なぜ言うのか／イスラエルよ、なぜ断言するのか／わたしの道は主に隠されている、と／わたしの裁きは神に忘れられた、と。あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。主は、とこしえにいます神／地の果てに及ぶすべてのものの造り主。倦むことなく、疲れることなく／その英知は究めがたい。

わたしたちは、神さまに文句を言い、自分の苦しみを嘆き、恨みつらみを語ります。しかし、神さまがわたしから目を逸らされたこと、耳を塞がれたこと、御手を伸ばされなかったことは、たったの一度もありません。わたしの髪の毛一本さえも気にかけ、見つめ、配慮して下さっている方を見失っているのは、わたしたちの方なのです。神さまの恵みを見つめる目が開かれますように。

6日(木)

コリントの信徒への手紙一 1 章 23~24 節

わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。

イエスさまの十字架の救いは、ある人にはつまずきとなり、ある人には愚かなものと思われれます。しかし、召された者には、神の力、神の知恵に他なりません。神さまはわたしたちの思いもよらない仕方で、救いの御業をなされます。わたしたちの思いを超えて働かれ、御国を来たらせられます。わたしたちは、頑なな心を開き、これを信じ、受け入れる者とされたいのです。

7日(金)

詩編 107 編 1~3 節

「恵み深い主に感謝せよ／慈しみはとこしえに」と

主に贖われた人々は唱えよ。主は苦しめる者の手から彼らを贖い国々の中から集めてくださった／東から西から、北から南から。

次の主日礼拝の御言葉です。主は、贖う者たちを、世界中から御許へ召し集めて下さいます。東から西から、北から南から。民族も、空間も、時間も超えて、神さまは御心によってご自分の民を選び、贖い、救い出し、神さまのものとして下さいます。わたしたちもまた、そうやって集められました。ですから、共に唱えましょう。

「恵み深い主に感謝せよ／慈しみはとこしえに」

8日(土)

ルカによる福音書 13 章 23~24 節

すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。」

明日の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは、入りやすく、分かりやすい、広い戸口を通して救われたいと願っているかも知れません。しかし、イエスさまは、戸口は狭いのだと言われます。だから、入るように努めなさいと。イエスさまを受け入れること。十字架に架けられた救い主を信じること。これは、わたしたちにとって躓きであり、信じがたいことであり、理解に苦しむことです。しかし、そこを通りなさいと言われていています。救いを真剣に求め、御言葉に熱心に耳を傾けるのです。神さまの招きを聞き、悔い改めてそれにお応えする者となることを、祈り求めるのです。そこには、狭いけれど、わたしたちの思い通りではないけれど、神さまが用意して下さった救いに至る戸口が、確かに開かれているからです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』